

# 東海テレビかわら版

東海テレビ制作の作品  
第63回ギャラクシー賞 CM部門で選奨を受賞！  
【選奨】東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット  
「戦後80年～名古屋空襲を知り、つなぐ～」

「ギャラクシー賞」は、放送批評懇談会が放送文化の質的向上を目的に1963年に設立した権威ある賞で、テレビ・ラジオ・CM・報道活動の4部門に分かれ、ドラマやドキュメンタリーなど優れた放送作品や関係者に贈られるものである。昨日、その発表の様子が、放送批評懇談会YouTube公式チャンネルで配信され、CM部門で、東海テレビが制作した「戦後80年～名古屋空襲を知り、つなぐ～」が選奨を受賞しました。今回の応募作品数はテレビ部門115、ラジオ部門88、web部門が102、合計305で、最終審査に残ったのは本作品を合わせ、13作品でした。尚、本作品の内容は下記の通り。

記

## 【CM部門 選奨】

タイトル:「戦後80年～名古屋空襲を知り、つなぐ～」

企画意図: 戦後80年。当時を知り、語れる人はどんどんと減り、残り僅かと言っても過言ではない。実際にその目で見た光景、色、感じた温度、音...

痛みを伴って語られるその体験談を聞ける機会は希少となってしまった。当時10歳でも現在90歳。もはや限界だ。一方で、戦争の傷跡や記憶を残そうと動く若い世代も確かにいる。

このCMキャンペーン4本は、愛知・名古屋を舞台に「戦後80年」をとらえた群像集である。全国的に教科書では「沖縄での地上戦」「大規模な東京空襲」「広島・長崎への原爆投下」などを主に学ぶ。しかし死者7858人、負傷者1万人を超えた「名古屋空襲」は、地元ですら知らないという若い世代が圧倒的に多い。被害の大小ではない。人の命は平等だ。戦争はいけない。ここ名古屋でもそんな想いを未来へつなぐ、多くの人が考える一端になることを望む。知らないということはなんて怖いことなのだろう。忘れてしまうということはなんて悲しいことなのだろう。今私たちが生きていることは当たり前じゃない。戦争があったことを知り平和への思いを未来につなげたい。

## <制作者コメント>

プロデューサー: 服部篤幸(東海テレビ)

「名古屋空襲を今の世代に見てもらえるよう敢えて短い尺にしました。CMに“生きているのは当たり前じゃない”というメッセージを込めましたが、生きていることに、CMが作れることに、番組が作れることに感謝し、今後の制作活動に繋げていきます。」



燃える名古屋城

<本作品は下記のURLから視聴できます>

<https://www.youtube.com/watch?v=7QCbqRpQX8c>

<https://www.youtube.com/watch?v=Pdrt1iqsg9g>

<https://www.youtube.com/watch?v=7XxGWfqWV5g>

[https://www.youtube.com/watch?v=a78-qRDD\\_Ag](https://www.youtube.com/watch?v=a78-qRDD_Ag)

2026年6月1日(月)発行

